

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成17年10月1日	
法人名	有限会社 フェルシ			
事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋			
所在地	(〒250-0034)			
	小田原市板橋933-3			
サービス種別等 定員	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年12月22日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的な雰囲気の中で、心身の活性化を目指した環境作りをし、認知症の進行の緩和を図る。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年1月16日	評価機関 評価決定日	平成30年4月4日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は箱根登山鉄道の箱根板橋駅から徒歩約10分、小田原の禅宗3名刹のひとつ香林寺の門前に位置している。周囲は庭園が見事な松永記念館をはじめ寺や神社、公園などが点在し、散歩コースに事欠かない緑豊かな場所である。建物は、一部耐震補強をしているが、原木から切り出した角材や漆喰などの自然素材を使用した木造2階建てである。床張りは、1階は楓、2階は桜の材質で日本家屋の良さが感じられる。</p> <p><b>【理念に基づく支援の実践】</b> 「家庭的な雰囲気を大切に、心身の活性化を目指した環境を作り、安心した生活が送れるようお手伝いします」という理念を職員は理解し共有して実践に努めている。家庭的な雰囲気を心がけ、利用者を家族の一員として接し、笑顔で寄り添い声かけや誘導を行っている。散歩や外出をはじめ、レクリエーションなどを通じて心身の活性化を図っている。利用者の話しを傾聴し、想いや意向を丁寧に把握して利用者の不安を受け止めて、安らかな生活を営めるように支援している。利用者も職員が忙しいときはねぎらいの声をかけるなど気に掛けていて、良好な関係を築いている。</p> <p><b>【職員が働きやすい環境づくり】</b> 管理者は、職員とのコミュニケーションを密にして、毎月開催されるユニット会議や日頃のサービスの現場で、意見や提案を聞き取っている。職員の提案で、創作レクリエーションとしてハロウィンに仮装パーティーを開いた。訪問時、パーティーの写真が掲示されており、利用者が楽しんでいる様子が分かった。また、誕生会には職員全員のお祝いメッセージが貼られたカードを手作りし、利用者に渡して喜ばれている。 職員が働きやすい環境づくりに気を配っており、職員の個人面談を実施して、個別に仕事上の目標、悩みや相談の聞き取りをした。育児短時間勤務制度を活用し、育児しながら仕事を続けている職員もいる。調理専門職員を雇用して、介護職員が食事作りに時間をとられることなくサービスに専念できる体制である。管理者と職員の信頼関係が築かれ、連携していることが見て取れた。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームほほ箱根板橋
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解にむけた働きかけを行っている。	職員は、理念を毎朝申し送り時に唱和して共有し、理念の趣旨を念頭に置いている。利用者に対して、目上の家族のように敬意と親しみを持って接している。その人の出来ることをやってもらい、心身の活性化を図って心安らぐ日々が送れるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し交流している。	自治会に加入している。祭礼時は神社の神輿が玄関前に寄ってくれる。隣の寺院の地蔵祭りに出かけ、イベントを楽しんでいる。フルート演奏のボランティアが来訪し演奏を披露している。事業所の「秋祭り」には近隣に案内を出し、住民が参加している。参加出来なかった方に、祭りの料理を届けた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が行っている「認知症サポーター研修」に協力し市内の会場へ講師を派遣している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	秋祭りの行事に町内会長、民生委員、地域包括職員等を招待し日常の生活状況を紹介している。ご家族や利用者との交流を促した。	運営推進会議は、平成29年9月に開催している。参加者は、家族代表、入居者代表、地域包括支援センター職員、自治会会員、法人代表、管理者である。今後はイベント開催など人が集まりやすい機会を利用して開催する予定である。	運営推進会議は、年間6回開催し、事業所の状況を報告するほか、参加者との質疑応答などを通じて双方向的な意見交換を行うことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請代行や、生活保護受給者の手続き等の際、困った事等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。	小田原市福祉健康部生活支援課職員が、生活保護費受給者の面会に訪れた際に情報交換をしている。小田原市のグループホーム連絡会に加入し、研修に職員が参加したり、他の事業所と共に、毎年「RUN伴+小田原」に利用者職員が参加している。前任の管理者が、現在も小田原市の認知症サポート講座に協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、施設内研修を行い、理解を深めている。	身体拘束廃止の職員研修を実施している。重度化した利用者は姿勢保持のため車椅子を使用しているが、折を見て、ベッドなどに移乗して休んでもらっている。バルーン使用の方には、家族の了解を得てセンサーマットやベルを使用している。玄関やフロア入口は夜間を除いて開錠している。不意の外出の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を大切にしている。身体拘束廃止の研修の際、確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度より、成年後見制度をご利用される方がおり、全職員はその制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会が多く、その都度ご意見を伺うようにしている。運営会議への参加を募集しているが、難しい状況で、開催ができ辛い状況である。	家族の意見や要望は、ケアプランの更新時や利用者への訪問時に聞き取っている。電話やメールでのやりとりも利用している。利用者の家族から「妻の着衣の首元が空いているので気をつけてほしい」との要望に応え、シャツのボタンを上までかけるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。	月1回のユニット毎のカンファレンスは、全員出席している。職員はケアプランの実施状況をはじめ、日頃のケアやイベントについて意見や提案を交わしている。着任した管理者が、職員の個人面談を実施して、個々の目標、悩み、相談事などを聞き取った。職員からの提案で、誕生会には職員のメッセージを貼り付けたバースデーカードを作成して利用者に渡している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。また、経験年数に応じ、ステップアップの為の研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加させる機会を多く作っている。小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修等に参加し易い環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修等に参加し易い環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に施設を見学、あるいは体験入所をして頂き、不安感や困り事を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居がきまった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困り事・要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーへ連絡し、状況を確認すると共に、自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、ご利用者から昔の風習などを教わりながら、一緒に暮らす者同士の関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に、ご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるかご家族に出来ること、施設で出来ることを、一緒に話あえるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。また、手紙や電話等の代行をし、なじみの関係を継続しやすいよう、配慮している。	利用者の実家の墓参りに職員が同行した。家族から携帯電話を預かっており、利用者の希望があれば、予め登録した家族や知人にかけていただいている。華道師範だった利用者の弟子が時折来訪しており、居室に案内して湯茶でもてなしている。書道をたしなむ利用者が、家族の依頼で、年賀はがき約50枚を2日かかりで書き上げた際、支援をしたケースがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクや作業を中心に、日中、できるだけリビングで過ごす事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常のかかわりの中でも、ご本人の思いを把握するよう努めている。	職員は、日頃から利用者と言葉を交わし、想いや意向を聞き取っている。意思の疎通困難な方は、表情や態度から把握している。把握した利用者の想いや心情の変化を、生活記録に記入して共有している。地域内で独居だった利用者の希望に応え、思い出深いスーパーマーケットに同行した。情景が変わっていたが、気持ちの発散になった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操・散歩等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいたことを話し合い時には家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。	利用者のアセスメントは定期的に更新している。介護計画はアセスメントから課題整理総括表を作成してニーズや課題を抽出し、サービスの目標を定めて内容をコンパクトにまとめ作成している。職員は計画に沿った実施の記録をつけている。毎月開催している職員全員が参加するカンファレンスでモニタリングを作成し、見直しは6か月毎、変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施・工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診て頂いている方は、ご本人の希望を尊重し、通院介助を行っている。	連携内科医が、月2回往診している。訪問歯科医は、通常月2回来訪している。従前のかかりつけ医を受診している方が3名おり、うち1名は家族対応、2名は事業所職員が支援している。皮膚科通院中の利用者を職員が支援している。看護師は2名で、週4日勤務している。看護師の1名は、24時間オンコール体制である。診療結果は支援記録に記入し、情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。看護職員は、ご入居者に対し、状況に応じて診察を受けられるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成しご本人の状況について、情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるよう、医療機関との連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にお看取りのことも含めて、ご家族の意向を確認し、施設の方針の説明を行っている。	契約時に、重要事項説明書で「重度化した場合の対応の指針」を説明し同意を得ている。連携内科医が24時間連絡体制にある。利用者の重度化により、ターミナルの状況になった場合、家族の希望を踏まえて、「看取り介護についての同意書」を取り交わして、ターミナルケアを行う。直近の事例では、発熱後急激に状態が悪化し2日間で最期を迎えた方がいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報する訓練を交えた火災避難訓練。1回は、地域の防災訓練に参加。	防災訓練の実施記録が見当たらなかったが、事業所の行事に合わせて開催する予定となっている。災害備蓄は、建物外の倉庫に、飲料水と食料が職員の分を含めて3日以上収納されている。他に食材が冷蔵庫内に1日以上常備されている。災害対策マニュアルが備えられている。	防災訓練を定期的実施して記録すること、カセットコンロなどの熱源や保温シート、介護用品などの備品を補充し、災害備蓄のリストを作成して、備蓄管理を実施することを望みます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけるよう対応している。	職員は、利用者に対して激しい口調で誘導や制止をしないようにしている。家族に対して本人のことを話す際は、居室などで行っている。居室に入るときはノックをし、本人がリビングにいる場合は、承諾を得ている。リビングの書類は、離れたテーブルで扱い収納棚に置いている。個人情報を含む書類は、事務所で施錠して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの時間やティータイムを利用して、ご本人達が何をされたいか希望を聞いている。その中で、出来る事を提案しながら、ご本人が決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ルーティーンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人から衣類など欲しいと要望が聞かれた時は、要望に応じている。また、ご利用者の希望に併せて、訪問理美容を提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みに合わせて、献立以外のものも提供している。職員と外食に出かけ、本人のお好きなものを召し上がってもらっている。季節のお弁当を購入して、お花見を楽しんでいる。	食材は、1回につき2日分を購入しており、緊急時の備蓄にもなっている。調理専門職員が1階厨房で調理し、配膳は職員が行っている。いんげんのサヤ剥きや食器拭きを自ら手伝ってくれる利用者がある。職員は同じものを食べながら見守りや介助を行っている。誕生会では職員手作りのケーキを提供している。ラーメンやちらし寿司の出前を取るなど食事を楽しむ工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、ティータイムのお茶やおやつ等で栄養や水分の確保をしている。また、ご本人の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行える人も、必要に応じて職員が口腔内のチェックをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、1人ひとりに声をかけ、自立に向けた支援を行っている。	トイレは各ユニットに2か所あり、1か所は浴室の脱衣所に隣接しているため失敗した際にプライバシーを保った対応がしやすい。職員が二人体制で介助して、座位をとって自力排泄できるよう支援している。夜間の排泄介助は、1階は、定時巡回して声かけやパッド交換を行って清潔を保っている。2階は睡眠優先で、見守りを中心としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い、散歩を日課としている。食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調やご希望に合わせて、個別対応を心かけている。	入浴は、原則として週2回で、1人毎に湯を交換している。体調によりシャワー浴や看護師による清拭を行っている。ヒートショックの防止に気を配っている。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんでもらっている。浴室は檜張り、浴槽は石造りで、温泉気分が味わえる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し、理解している。管理は施設で行い、個々の体重の変化や異変について、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、1人ひとりの状態に合わせて、皆で行っている。1人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活出来るような援助を心かけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。また、気分転換の目的で屋外で足浴レクレーションを行った。	天候が許す限り、日課として隣接した松永記念館や香林寺境内を散歩している。近くファミリーレストランに外出食に出かけることもある。車椅子の利用者にも対応している。通院介助の際に病院の売店で買い物を楽しむ方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度自己管理が可能な時は、小額の管理はして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、ご本人が書かれたお手紙を投函している。また、電話の取次ぎ等の援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう、心かけている。	床木材に1階は楓、2階は桜の木を使用しており、感触が直接伝わり温もりが感じられる。リビングは床暖房で加湿器を設置しており、温度・湿度の管理を行っている。東南に向けた窓は、採光が良く明るい。壁には、秋祭りなどの行事の様子の写真や利用者が作った折り紙が掲示されている。床は次亜塩素酸ナトリウムで消毒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも交流できるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを入居時にお持ち頂けるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。	各部屋毎に構造の違いがあり、畳部屋もある。防炎カーテン、空調設備、照明器具、収納設備、ベッドが設置されている。利用者は寝具や衣類、馴染みの家具やテレビ、家族の写真などを持ち込んで住み心地よくしつらえている。居室担当者が清掃、整理整頓を支援している。表札は、職員が作った羽子板を模ったものなどを掲げ、分かりやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを設置し、自立を促すよう配慮している。		

事業所名	グループホームほほ箱根板橋
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、管理者と共に理念を復唱している。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が行っている「認知症サポーター研修」に協力し、市内の会場へ講師を派遣している。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	秋祭り行事に、町内会長、民生員、地域包括職員等を招待し、日常生活状況を紹介。ご家族、利用者との交流を促した。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請代行や、生活保護受給者の手続き等の際、困ったこと等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、禁止対象となる身体拘束をしないケアに取り組んでいる全職員が身体拘束禁止規定について、十分把握している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待行為を否定し人権を尊重すべきと認識している。身体拘束も含め、今後も研修等で検討していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度をご利用されているご入居者が複数おり、職員は制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び内容等に変更が生じたときは、丁寧にご説明するように努めている。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会が多く、その都度意見を伺うようにしている。運営会議に参加を募集しているが、難しい状況で、開催がいきづらい状況である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、原則毎月のカンファレンスに出席し、職員からの意見・要望・提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加しやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加し、連絡会主催の研修に職員が出席するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホームを見学、あるいは体験入所をしていただき、本人が不安に感じていること、困っていることを傾聴し、安心していただける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者は、ご利用者家族からの相談に応じ、時には訪問して困り事などを聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に自宅等へ訪問したり、ご家族がホームを訪れアセスメントを行い、必要とする支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、ご利用者から昔の風習などを教わり、一緒に暮らす者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、日々のご利用者の様子を話し、困った事などをご家族と共にどうしたらご本人にとってよいかを常に話し合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの方がいつでも面会に来られるよう、ホームをオープンにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、リビングで過ごして頂けるよう、皆で協働して行えるゲームや貼り絵を提供し、支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族から相談があった時は、守秘義務に注意しながら相談に応じ、アドバイスをを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常の関わりの中でも、ご本人の思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、1人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいた事などを話し合い、時には家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の居宅介護支援事業所やグループ法人の通所介護、訪問介護事業所と連携し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等を活用し、懐かしい曲を鑑賞したり、唄ったりしながら日々の暮らしを楽しまれている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診て頂いている方は、ご利用者の希望を尊重し通院介助を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気付いた情報を看護師に伝え相談している。看護師は、利用者に対し状況に応じて受診などを受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状況について情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるよう、医療機関との連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りのことも含めて、ご家族の意向を確認し施設の方針について説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報す訓練を交えた火災避難訓練。1回は、地域の防災訓練に参加。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人、ひとりの人格を尊重して言葉遣い、態度に気をつけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などを利用し、利用者が何をしたいのか希望を聞き具体的に出来る事を伝え、本人が納得し決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はある程度決まっているが、こちらのペースではなく、ご利用者のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/月、利用者の希望に合せ、訪問理美容を利用して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みに合わせて、献立以外のものも提供している。 職員と外食に出かけ、本人のお好きなものを召し上がってもらっている。季節のお弁当を購入してお花見を楽しんでいる。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時のお茶や汁物、おやつのお茶などで確保できるようにしている。また、ご本人の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る人も必要に応じて職員が口腔内のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で、1人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗のないよう自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操をおこない、散歩を日課としている。食事の面でも繊維質の食品を取り入れている。また、排泄チェック表で排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、利用者の希望に合わせて個々に応じた入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により、安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、服薬説明書で理解している。服薬管理はホーム側で行い、個々の体重の変化や異変について確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、食器拭き、洗濯物たたみなど一定の利用者ではなく、1人ひとりの力を活かした役割ができるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、散歩に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの管理は全てホームで行っている。 通院後、買物を楽しみにされる利用者には付き添って買物ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など書かれた手紙やハガキを投函している。ケータイ電話を利用されるご利用者には、電話をかけたい時にかけられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を使用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台には季節の花が飾られており、過程的な雰囲気になるよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下には、ソファが置いてあり、いつも自由に寛げるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具など入所時にお持ちいただくようパンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場には手すりが取り付けられており、自立した生活が送れるようになっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームほほ箱根板橋

作成日 平成30年4月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	前年度は、年度途中に管理職の交代があり、推進会議は1回しか開催出来なかった。 このほか、面談時、知らない職員が多かった。心配の声を聞かれた。 事業所の状況を説明出来ない。	前年度より1回以上多く開催し、事業所の状況を報告する。 民生委員への参加を依頼し、情報発信の機会を増やす。	定期的な会議・開催への参加を依頼し、施設の状況を知らせていく。 開催に7-2の所長と直接持ち寄り出席を原案とする。	2018.4.1 ～ 2019.3.31
2	35	災害対策に備え、カセットトイレなどの熱源や保温シート、介護用品などの備品を補充し、災害備品リストを作成出来ない。	防災訓練を定期的に実施し記録する。 カセットトイレ、保温シート、介護用品などの備品を補充し、災害備品リストを作成する。	カセットトイレなどの熱源、保温シートなどの備品の購入。 備品の管理。	2018.4.1 ～ 2019.3.31
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。